

大御所 家康公の光

MAP P16-17

【静岡市清水区】

6 清見寺

7 清水港

【静岡市駿河区】

8 丸子宿

【焼津市】

9 石脇浅間神社の旗掛石

家康公の手腕が光る
外交政策と国内政策

家康公が生涯のおよそ三分の一を過ごしたという駿府（静岡市）には、二百六十年余に渡る徳川の時代の礎を築いた家康公の足跡が数多く残る。
幼少時代から関わりの深い清見寺は、家康公の外交舞台の一つ。1607年（慶長12年）、関

係が冷え込んでいた朝鮮国との国交正常化に向け、四六七人の朝鮮通信使の来日を駿府で実現させた。そのときの通信使宿舎が清見寺だ。

水運整備にも力を注いだ家康公。戦国時代から軍事上、重要な湊だった清水湊（港）を海上交通の要衝と考え、巴川の河口を利用して港町を造った。駿府城と清水湊を結ぶ巴川水路を掘削し、石材など多くの物資が巴川を上り運ばれたという。

1615年（元和元年）の大坂夏の陣では、徳川軍の食料輸送などに協力した廻船問屋に営業の独占権を与え、湊の発展にも尽くした。

天下統一には陸の交通網の整備が不可欠と考えた家康公は、1601年（慶長6年）に江戸から京までの東海道の宿場を定め、伝馬制をしいた。東海道五十三次のうち静岡県下には22宿ある。



7 清水港

海上交通の要衝として発展した清水湊（港）は、東西の物資が盛んに往来し、富士川を通じて送られた物資を江戸へ運ぶ拠点になった。多くの廻船問屋が軒を連ねていたという。

静岡市清水区入船町



8 丸子宿

鎌倉時代から交通の要衝として重要視されてきた歴史ある宿場。日本橋を起点に品川から数えて20番目にあたる。駿府城築城にあたり、丸子など近在からも石を集めたという。丸子宿はところで知られるが、家康公もところや麦飯が好物の一つだったという。

静岡市駿河区

☎054-251-5880（静岡観光コンベンション協会）



6 清見寺

① 清見寺本堂：家康公の師である臨濟寺の雪斎和尚が再興した縁で、本堂の裏には家康公手習の間がある。大御所時代にもたびたび訪れたと伝えられている。
② 清見寺名勝庭園：家康公の指示で配したという「五木三石の庭」。お手接ぎの臥竜梅、柿などの樹木と亀石、虎石などがある。

静岡市清水区興津清見寺町418-1

☎054-369-0028

拝観時間／8:30～16:30

拝観料／大人300円、中高生200円、小学生100円

9 石脇浅間神社の旗掛石

家康公が若き頃、武田軍の花沢城などを攻めたときに家臣の原川新三郎の家を本陣として石に旗をかけ勝利を祈ったとされる。大御所時代には鷹狩りで訪れ、石に旗を立て、その力をしめしたという。

焼津市石脇705

☎054-626-6266（焼津市観光協会）



◆朝比奈ちまき保存会

伝統の食べ物を後世に伝えたいと2011年（平成23年）に発足。地域の小学校でのちまき作り体験のほか、地域のイベントではちまきの販売を行っている。

藤枝市岡部町
朝比奈地区



文献を参考に作られた「朝比奈ちまき」（写真右）昔は「ちまきの井戸」と呼ばれる井戸の水を使っていたそうで、井戸が現在も残っている。（写真左）

京都のちまきと並ぶ、二大献上ちまきの朝比奈ちまきを、もっとたくさんの人に知っていただきたいですね」と朝比奈ちまき保存会の鈴木会長。イベントなどで配ったところ、大好評だったとか。

藤枝市岡部町に伝わる「朝比奈ちまき」。この一帯を治めていたという朝比奈一族の所蔵伝録によると「出陣にちまきを持参して食したところ、体力気力が充実して戦勝した。これ在家康公が聞きつけ、家臣の彦坂九兵衛に命じて献上させた」という。「椿の木を燃やした灰汁にもち米を一晚漬けてから蒸し、ついたもちを笹の葉などで包みます。とても手間がかかりますが、腹もちがよく、日にちがたつても不思議に柔らかいのが特徴です。



家康公も味わった
朝比奈ちまき



朝比奈ちまき保存会
鈴木 秀樹会長